

1998年2月26日の皆既日食に於ける エルニーニョ現象の影響について

石井 馨

既に新聞、雑誌、テレビ等で”今世紀最大級のエルニーニョ発生”に関する報道が、多くなされておりますので、この”エルニーニョ現象”が2月26日の皆既日食の遠征に及ぼす影響を危惧されている方も少なからずいらっしゃるかと思います。

”エルニーニョ現象とはなんぞや?”という基本的な解説は他のメディアにお任せするとして、本稿では皆既日食観測のための遠征とエルニーニョ現象との関連に関してインターネット上の情報から予測を試みてみたいと思います。

最大の関心事である天候に関してですが、結論から先に述べてしまえば、”エルニーニョ現象”の影響がどう出るかは誰にも判りません。気象学の中でもこの分野は非常に若く、研究の発展途上段階にあるからです。しかしながら何人かの専門家は、南米大陸北部とカリブ海の地域は、例年よりも乾燥し暖かくなるだろうと予測しております。

(関連URL：<http://planets.gsfc.nasa.gov/eclipse/TSE1998/T98E1Nino.html>)

これらの意見を述べる人の中には、”飛躍して解釈すれば”という前提で、降雨量が減ること、これをもたらす雲も減り、晴天率は従来統計データよりも更に向上するであろうと予測している人もいます。もっとも、皆既中に太陽の方向に一片の雲も無い、ということを保証するものでは無いことも併せて述べております。

総じて南米大陸北部とカリブ海の地域はエルニーニョ現象の影響によって、天候条件は悪い方向には向かわないと思われております。

他方、ガラパゴス諸島の方面では、例年よりも降雨量が多くなる可能性が指摘されており、この地域での日食観測のための天候条件は逆に悪くなると考えられています。

(関連URL：<http://www.usatoday.com/life/travel/leisure/lnino.htm>)

日食観測に限って言えば、この地域への遠征の魅力は落ちますが、何度もガラハゴス諸島を訪れているリピータの方々には、例年この季節では見られない珍しい渡り鳥を目撃するチャンスも有るでしょう。

天候以外のエルニーニョ現象の影響として注意すべきは、コロンビアに於けるマラリアの蔓延です。

(関連URL：http://iri.ucsd.edu/hot_nino/malaria/)

過去の統計データによれば、エルニーニョが発生した年(1972-73, 1982-83, 1986-87, 1992-93)にはコロンビアでは乾燥と温暖化により、ハマダラ蚊等の吸血量が増大し、例年の3~5倍以上のマラリア感染率となっていました。治安の面のみならず衛生面でも、この地域への日食観測遠征は、お勧め出来る状況では無いようです。

また、皆既帯ではありませんが、エルニーニョ現象によってカリブ海の南の島々が乾燥するぶん、キューバからフロリダ半島、メキシコ湾東部にかけては多雨となる傾向にあるようです。もともと冬にはこれらの地域は寒冷前線が停滞するようですが、例年よりも強い暴風雨に見回れる可能性があるようです。

(関連URL : <http://www.usatoday.com/life/travel/leisure/lnino.htm>)

日食観測遠征の経由地として、マイアミから観測地に入られるツアーが多いようですが、天候不順のために航空便が遅延する可能性もありますので、旅行日程には余裕を見ておいた方がリスクは少ないでしょう。

更にマイアミから船上観測のクルーズを計画されておられる方も、同様な日程遅延、或いは時化による船酔い対策には万全の準備をされておいた方が宜しいかと思えます。

(下図URL : <http://www.ogp.noaa.gov/enso/latinamerica.html>)

Potential El Nino Impacts

